

絆

167 号



自由民主党

衆議院議員

桜田よしたか

日本！この国を強い国に！
～国・地域・家族を守る～



日本とアメリカ、相互に実りある関係を！

アーミテージ元国務副長官、ファーゴ元太平洋軍司令官との対談

☆日本とアメリカとの懸け橋に...

私が国会議員として、5年目に忘れられない思い出があります。初代外務大臣政務官を拝命した2001年2月に、ハワイ沖で発生した「えひめ丸事件」がそうです。当時、森喜朗総理からの直接の電話を受けて、とるものもとりにあえず直ちにハワイへ急行いたしました。その時には、その後1か月近くハワイで捜索活動、米国との交渉に従事することになるとは思いもよりませんでした。事件は大変不幸な出来事でしたが、その当時お世話になった日米双方の多くの方々とは、今でもお付き合いをさせていただいております。不幸な出来事があったとしても、日米との絆は不変のものとして維持すべきであると、私は確信しております。ことしの9月、この日米関係を維持強化すべく、私は今後の日米関係の基礎を確かなものにすべく米国側要人との会談に渡米いたしました。今回は、その会談の様子をレポートしたいと思います。

☆日米の将来について：アーミテージ元国務副長官との対談

今回の渡米において、米国における知日派の大物であるアーミテージ元国務副長官と今後の日米関係、世界の将来について実りある対談を行ってまいりました。

リチャード・L・アーミテージ
 経歴

1945年4月26日、マサチューセッツ州ボストン生まれ。
 アナポリス（海軍兵学校）卒
 ベトナム戦争従軍、国務省勤務
 レーガン大統領国務次官補代理、
 ジョージブッシュ政権時の国務副長官を歴任。

知日派の大物

日本の各界とも深いつながりがある。米国政界での有力な知日派として有名。



平成 25 年 9 月 12 日、ワシントンのアーミテージインターナショナルにて。

☆対談内容要約：アーミテージ氏発言は（ア）と表記、櫻田発言は（櫻田）

（ア）まずは2020年の東京オリンピック開催決定にお祝い申し上げます。安倍総理は、2月の訪米の際、「自分は戻ってきた（I am back）」と力強く仰ったが、今回、東京にオリンピックが戻ってくることになった。日本の人々が今回の決定を喜んでる姿を見て、自分も非常にうれしくなった。10月に日本を訪問し、安倍総理にもお目にかかることになっているので、よろしくお伝え願いたい。

（櫻田）お言葉に感謝申し上げます。日本の人々も、東京オリンピック開催決定を受け、より一層前向きな気持ちを持つようになっている。停滞気味であった日本の経済も上向きになっている。今後、2020年に向け、サービス産業を中心に、日本経済も色々と変化を遂げていくこととなろう。

台頭する中国との関係について

（櫻田）尖閣諸島については、かつて200名以上の日本人が同諸島で生活していた事実がある。しかし、その住民も、第二次世界大戦の際に疎開し、その後、そのまま本土に居残ることになったので、結局、無人島となってしまった。しかし、過去に日本人が住んでいたことは揺るがすことのできな事実であり、一度も中国の領土になったことはない。

（ア）自分の理解では、仮に中国が尖閣諸島に対する領有権を主張するための何らかの口実（pretense）を持っていても、1894年の日清戦争と翌年の下関条約の結果、中国はそれすらも失ってしまったと考えている。自分にとって皮肉に思われるのは、仮に日韓関係が現在良好であれば、竹島をめぐる日韓両国で何らかの妥協を図ることも可能だとは思っているのであるが、他方、仮に日本が、現在、竹島問題で何らかの妥協を行えば、中国に対して誤ったメッセージを送ることになりかねないということである。

（櫻田）同感である。尖閣は、今後も日中間の紛争の種にはなっていくが、日本としては、この件で妥協することはない。ただし、中国は、今後も経済成長を受けて軍事費の拡大を続けていくので、尖閣をめぐる、ますます強い立場で臨んでくるのではないかと懸念している。

（ア）同感である。ただし、経済については、短期的にはやや改善しているようであるが、中長期的には、「影の銀行」や不良債権といった問題が存在することにも留意する必要がある。また、中国が国防予算を拡大しているのは紛れもない事実であるが、実は、国内治安予算の方が国防予算よりはるかに大きい点にも留意する必要がある。すなわち、中国政府は、近隣国よりも、自らの国民に対して、より大きな不安を抱えているのである。

先般、李克強首相と会談した際、自分から同首相に対し、中国の経済成長に関してどのように見ているかと質した。これに対し、同首相は、自分には分からない、ただし、一つ分かっていることがある、それは、中国の統計を信じてはならないということであると述べたのである。これに対し、自分から、なぜ信じてはならないのか、それでは何を信じれば良いのかと質したところ、同首相は、自分が唯一見ている統計はエネルギーの消費量と鉄道の輸送量だけであるという返事であった。中国の首相ですら、自国の経済統計を信じるできないのである。

（櫻田）日本が直面する最大の課題は日中関係の管理である。膨張を続ける中国との間で、どのように友好的な関係を築くことができるかと考えるか。

（ア）第一に、日本経済を強くすることである。今般、経済成長見通しに上方修正が行われたと承知しているが、これは良いことであった。第二に、日米関係を安定的に維持し、同盟としての自信を示すことである。

（櫻田）日米同盟強化の観点から、集団的自衛権に係る憲法解釈の変更を安倍政権は検討しているが、見解が異なる。我々自民党議員は、いつまでも安全保障を米国に頼るだけでは良くない、日米同盟をより双務的なものにすべきであると主張している。また、9条そのものの改正については、どのように見ているか。

（ア）第一に指摘すべきは、米国では、外交・安全保障問題に携わる者しか、この9条をめぐる諸問題を理解していない。他方、本件を理解している者の多くは、現在の9条の解釈が日米同盟の深化を妨げていると考えており、それ故に、安倍総理が進めんとしている解釈変更は歓迎すべきことととらえている。もちろん、これは日本自身が決める話である。しかし、小松新長官の下、法制局が集団的自衛権に関する立場を変えることを自分は期待している。

貴議員は、日本が米国に頼るだけでは良くないとされたが、現時点では、米国国内における日本に対する見方は非常に前向きなので、この問題が御座に日米関係に影を落とすことはないと思う。ただし、今、申し上げたとおり、解釈変更が行われれば、更に関係が強化されると思う。実際、解釈変更が行われないまま時間が過ぎ、ある日、例えば、併走する米軍艦船に攻撃が行われても海自艦船が対抗措置をとることができないといった事態が生じれば、それは日米同盟にとって大打撃となろう。9条改正については、手続き的にかなり難しいと理解している。かつ、自分が心配するのは、安倍総理が使うことのできる政治的資源のことである。日本の最大の課題は経済である。安倍総理は、自らの政治的資源を経済に振り向けるべきであり、憲法改正にエネルギーを注ぎすぎるべきではない。憲法解釈の変更により、安倍総理が目指そうとしている目的は十分に達成できると思う。

(櫻田) 中国が世界第2位の経済大国にのし上がったこともあり、米国の関心はより中国に向けられるようになるのではないかという懸念がある。

(ア) 日本として一つできることは、海外直接投資の受入れをより容易にすることである。中国は、海外の投資の活動をますます難しくしているところ、日本が投資の受入れに積極的になれば、世界の目も改めて日本に向くことになる。また、日本が中国と単独で張り合えば、中国の方が規模で圧倒的であるが、日米が連携すれば、まだまだ我々に勝ち目がある。

☆ファーゴ 元アメリカ太平洋軍司令官

(櫻田) 日米同盟は、日本の外交・安全保障政策の最も重要な柱であり、誰もがそのことを理解している。他方、自分は同盟の強化のために、より一層努力を重ねるべきと考えており、かかる観点から今回訪米することを決めた。冷戦は終わったものの、日本の周辺には、北朝鮮や中国のように価値観の異なる国があり、日本の安全保障環境はより一層厳しくなっている。



(ファーゴ) 貴議員の訪米を歓迎する。また、このような訪問は非常に大事であると自分も考えている。なぜなら、日米両国は、その関係が良好であるがゆえに、相手のことを当然視してしまう傾向があるからである。貴議員のような方が来訪し、米側関係者に対し、事実関係を正確に説明するとともに、日米関係の重要性を改めて指摘することは常に有益である。また、ワシントンDCのみならず、他の主要都市を訪問したり、米国の報道関係者とお会いいただくこともお薦めしたい。自分も、太平洋軍司令官在任中は、ハワイに来訪される国会議員の方々とは何度か会見したが、いつも何か新しい学びがあった。(櫻田) トモダチ作戦の際の米軍の支援に改めて感謝申し上げる。同作戦を通じ、米国がいかに日米同盟を大事に思われているかを我々は理解することができた。東北地方の復興は進んでいる。2020年のオリンピックまでには、東日本の新しい姿を御覧いただけたと思う。

(ファーゴ) 自分もそうなるものと信じている。また、震災の際の日本人の対応に非常に深い感銘を受けたことを申し添えておきたい。

2. えひめ丸事故

(櫻田) えひめ丸事故は、それ自体は大きな悲劇であったが、同事故を経て、ハワイ州と愛媛県とが姉妹都市交流を始めるなど、日米の交流強化の契機ともなった。ファーゴ司令官の当時の親身な対応には感謝しているし、それ故に、良好な日米関係を維持できたものと認識している。この場を借りて、改めて感謝申し上げたい。

(ファーゴ) 自分は、今でも、えひめ丸事故のことを思い出す。日米双方とも、この悲劇的な出来事に清寧な解決をもたらすことができるよう、最大限の努力を注いだ。ホノルルには、慰霊碑が建てられ、毎年、慰霊式が行われている。先般、ホノルルの日米協会で講演を行ったが、そこでも、えひめ丸事故は、日米両政府が困難な状況にもかかわらず緊密に協力した例であるとして、具体的に取り上げた次第である。貴議員も御指摘のとおり、同事件を経て、日米関係はより強固なものになった。自分は、後任の司令官たちに対しても、えひめ丸事故は、今では日米関係の大切な一部分であり、司令官として同事故に適切な留意を払うべきである旨申し渡してある。

文部科学副大臣就任のご挨拶

先月9月30日、文部科学副大臣(科学技術・学術・スポーツ担当)に就任致しました。2020年の東京オリンピックの成功はもちろん、日本の科学技術の振興をメインに、教育再生や文化芸術の発展についても、下村博文大臣、西川京子副大臣、富岡勉・上野通子両政務官とも緊密に連携して努力をしております。皆様に於かれましては、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りたく謹んで宜しくお願い致します。



左から西川副大臣、櫻田副大臣、下村大臣、富岡政務官、上野政務官

党員募集のお知らせ

【入党手続き】 桜田事務所までご連絡ください

【自民党員になると】2年間継続した党員は、自民党総裁選挙の有権者となります。また桜田義孝事務所より活動報告や行事案内をお送り致します。【党員種類】 一般党員 年間 4,000 円 家族党員 年間 2,000 円

桜田義孝柏事務所

〒277-0814 柏市正連寺 374 TEL:04-7132-0881 FAX:04-7132-6456

桜田義孝国会事務所

〒100-8982 東京都千代田区永田町 2-1-2 衆議院第二議員会館 1117 号室

TEL : 03-3508-7381 FAX : 03-3508-3501

ホームページ <http://www.sakurada-yoshitaka.com/>

メールアドレス web@sakurada-yoshitaka.com

Twitter (ツイッター) <http://twitter.com/ysakurada>

☆メールアドレス登録で、桜田からの耳より情報を配信いたします！上記アドレスまでご連絡ください！

